



青柳園だより

令和2年
7月号
文京区立青柳幼稚園

この季節ならではの遊びを通して

園長 多比良 由恵

梅雨の晴れ間に夏空の広がっている園庭には、ミニトマトやインゲン、ピーマン、ナスなどの夏野菜がたくさん育っています。幼稚園が始まって1カ月が過ぎました。子どもたちにとって待ちに待った幼稚園生活、本当に張り切っているいろいろな遊びを楽しんでいます。幼稚園での遊びの中で、子どもたちは様々な試しや工夫、挑戦をしています。

4歳児もも組の色水遊びでは、魔法の紙（クレープ紙という色が出る紙）を使って遊んでいます。教師は、自分のジュースが作れるように小さな容器をたくさん用意しています。毎日違う色の紙を用意したり、慣れてきた頃に2色の紙を出し混色が試せるようにしたり…、少しずつ変化が楽しめるように環境設定をしています。友達と隣り合って色水遊びをしている子どもたちの会話です。

Aさん「みて！濃いブドウジュースと薄いブドウジュースができた！なんでだろう？」

Bさん「ピンクの魔法の紙をたくさん入れると、この色になった！」

Cさん「じゃあ、ぼくは青の魔法の紙をたくさん入れてみる！」

Dさん「何か似ている色だけど、よく見たら違うからジュースの兄弟だね」

・・・色水遊びを繰り返し楽しむ中で、気付いたことを先生や友達に伝えながら、自分なりに工夫したり、友達のしていることに気付いて取り入れたりして遊んでいます。

5歳児ゆり組の子どもたちは、裸足になって大きなスコップを使って穴を掘ったり、雨どいを組み合わせて水を流したりなど、友達と一緒にダイナミックな遊びを楽しんでいます。

Eさん「ここに、大きな穴掘ろうよ」 Fさん「いいよ。じゃあ、こっちに山つくろう」

Gさん「そろそろ、水、流している？」 Hさん「ちょっと待って。もう少しでつながるから」

また、一人でじっくりと挑戦している姿もあります。真剣な表情で、根気よく、繰り返し試しています。

Iさん「どうやったら、うまく水が流れるかな？」「高さがたりないのかな？」

「こうしたらどうかな～？」「やったー！うまくつながったよ～。〇〇ちゃん、見て～」

・・・教師は、友達と思い切り場を広げられる空間や自分のペースでじっくりと取り組める場の確保、雨どいや牛乳パックの柱など様々な挑戦ができる用具の用意など、場や物の環境設定をしています。

この季節にしか経験できない様々な遊びを通して、子どもたちの確かな学びの芽を育んでいきたいと思います。

